



国際協力機構(JICA)モンゴル事務所

# 事業概要



# JICA at a Glance

## 有償資金協力

**1,829億円**

2023年度までの累計額



## 無償資金協力

**876億円**

2023年度までの累計額



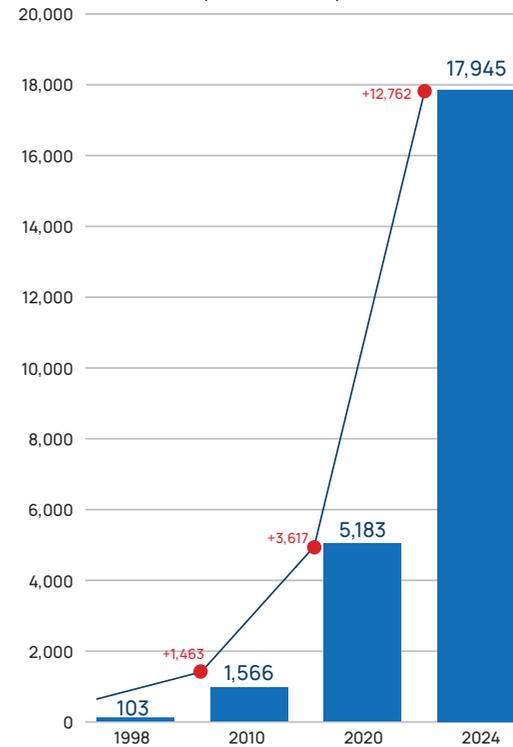
## 技術協力

**603億円**

2023年度までの累計額



## 財政基盤の強化に貢献 税収額の推移 (10億MNT)



## 資本市場の 拡大に貢献

資本市場価値のGDP比



## JICA ボランティア

1992年からの累計派遣者数

**772人**

現在派遣中

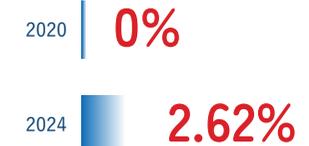
**41人**



2025年5月時点

## 店頭市場 (OTC)の構築に 貢献

OTCにおける  
社債発行額のGDP比



## 日本及び第三国での 研修参加者



研修員受入人数

**7,038人**

(1977年～2025年3月)

## 自治体との連携

草の根技術協力事業  
(地域活性型)を通じて  
連携した地方自治体数

**19件**  
(2003年～2024年)



## JICA Bizによる 民間企業との 連携

**35件**  
(2015年～2024年)





ウランバートル  
市内の上水の

約**70%**  
を供給  
(2025年)



再エネ設備  
容量の

約**17%**  
の発電  
(2023年)



チンギスハーン  
国際空港の

約**187**万人  
利用者数 (国際線)  
(2024年)

※2015年の同利用者数は約81万人



有償資金協力 工学系高等教育支援事業(M-JEED/1000人エンジニアプロジェクト)

日本に留学した人材の数



高専

**177**人



学士課程

**292**人



修士課程

**37**人



博士課程

**104**人

日本への  
短期派遣者数

**535**人

日本の大学との  
共同研究数

**26**件

日本の協力機関数

協力 高専数	共同研究の 協力大学数	ツイニングプログラム の協力大学数
<b>51</b> 校	<b>60</b> 校	<b>10</b> 校

(2014年～2025年)



廃棄物最終  
処分場:  
ウランバートル市で  
排出されるごみの

約**45%**  
を処理  
(2025年)



有償資金協カツーステツプローン

雇用創  
出数

**27,466**人

融資プロジェクトの数

**1,026**人

うちウランバートル市

地方21県

**594**件

**432**件

総融資額 約**15,367**百万円

(2006年～2025年)



日本・モンゴル  
ビジネスフォーラムの  
参加者数

日本人	モンゴル人
<b>350</b> 人	<b>1,100</b> 人

(2022年～2024年の3回累計)



日本センターでの  
ビジネスコース  
受講者の数

**39,840**人

(2002年～2025年5月)



育成した  
獣医師の数

**2,248**人

モンゴル  
獣医師の **70%**

(2014年～2025年)



育成した  
ジョブコーチ  
(障害者就労  
支援員)の数

**241**人

(2021年～2025年)



モンゴル日本病院における  
診療、研修、研究実績

外来患者数

**634,256**人

入院患者数

**15,672**人

臨床研修実績

59回の研修を通じ  
**1,129**人  
(累計)を育成

臨床研究数

**123**件

(2019年～2025年)

### JICAとは

JICAは、日本の政府開発援助(ODA)のうち、二国間援助の中核を担う開発援助機関として、技術協力、有償資金協力、無償資金協力など、さまざまな支援メニューを活用し、世界の150以上の国と地域で事業を展開しています。



### モンゴルでの協力

モンゴルに対する日本の経済協力は、1977年のゴビ・カシミア工場建設に係る無償資金協力から始まります。1990年のモンゴルの民主化、市場経済化以降に協力が本格化し、これまで技術協力、有償資金協力、無償資金協力の総額は約3,308億円(※1)に達しています。また、1992年以降、ボランティア770名以上(※2)がモンゴルに派遣され、モンゴルから研修員として7,038名以上(※3)を日本での研修に受け入れるなど、これまで経済・社会インフラの整備や人材育成を通じた協力を展開してきました。日本は、今日に至るまで、一貫してモンゴルのトップドナーであり、JICAは、その中心的役割を担っています。

※1 2022年度末時点。技術協力は予算年度の経費実績ベース(JICA実施分のみ)、有償資金協力及び無償資金協力は交換公文ベースによる。

※2 2025年5月末。

※3 2025年3月末。

### 主な支援メニュー



#### 技術協力

日本の技術・知識・経験を生かし開発の担い手となる人材育成や制度づくりを支援します。専門家派遣、研修員受入、技術協力プロジェクト、地球規模課題に対する科学技術協力(SATREPS)などのメニューがあります。

**事例:**モンゴル学校給食導入支援プロジェクト、地震防災能力向上プロジェクトフェーズ2、市場志向型農業振興プロジェクトなど



#### 有償資金協力

借金は、緩やかな融資条件で資金の貸し付けを行い、インフラ整備などを支援します。また、海外投融資は、民間事業を資金面で支えるものです。

**事例:**新ウランバートル国際空港建設事業、ツェツィー風力発電事業、ウランバートル第4火力発電所効率化事業、工学系高等教育支援事業、財政・社会・経済改革開発政策借款、ソーステップローンなど



#### 無償資金協力

返済義務を課さずに資金を供与し、学校や病院など、社会・経済開発のために必要な施設の整備や資機材の調達などを支援します。

**事例:**ウランバートル市高架橋建設計画、ウランバートル市初等・中等教育施設整備計画、日本モンゴル教育病院建設計画、人材育成奨学計画など



#### 市民参加協力

JICAは、開発途上国と日本をつなぐ懸け橋として、日本の市民による国際協力活動を促進・支援し、協働する事業を「市民参加協力」と位置づけ、ボランティア事業や草の根技術協力事業など、さまざまな取り組みを行っています。

**事例:**モンゴル自立生活センター強化プロジェクト、モンゴル国新潟・モンゴルの産業変革を担う産業DX人材育成プラットフォームの構築など。教育、保健医療、障害児支援、産業人材育成分野でのJICA海外協力隊派遣など



#### 民間連携

中小企業海外展開支援事業や協力準備調査(PPPインフラ事業)などを通じて、日本の民間企業が持つ優れた技術やノウハウを活用し、多様化する開発途上国の課題解決に貢献します。

**事例:**モンゴル国ドローン活用による医療品の配送網構築のためのビジネス実証事業、モンゴル国タマネギ種子のバリューチェーン構築に向けたニーズ確認調査など

### JICAの協力戦略

JICAは、以下の3つの重点分野と6つの開発課題への取組みを協力戦略として位置づけ、事業を展開します。



## 健全なマクロ経済の運営とガバナンス強化

1

マクロ経済を安定的なものとし、持続可能な経済成長を実現するために、公共財政管理の向上を図るとともに、行政をはじめ公的機関の機能の再生を目的としたガバナンス強化を図ります。

## 環境と調和した均衡ある経済成長の実現

2

ウランバートルへの一極集中を緩和し、鉱業依存の経済構造から脱却するために、環境と防災に入りした都市インフラ整備、「産業多角化」地域開発のための産業育成を図ります。

## 誰一人取り残さない社会の実現

3

所得レベルや地域による格差(教育、保健、福祉など)を是正するために、社会の中で取り残された人々に焦点を当て、より効率的・効果的な社会サービスの提供を目指し、「保健医療の質とアクセス向上」、「基礎的社会サービスの強化」を図ります。

## 1 健全なマクロ経済の運営とガバナンス強化

### 公共財政の規律強化と金融システムの育成



歳入基盤の強化と歳出管理における長期開発政策との整合性や規律性・持続性の強化を図ることにより、資源を効果的に配分し、開発政策を具現化できる財政基盤の拡大を目指します。均衡ある金融市場の発展に向け、資本市場の育成を重要視しています。

**事例:ビッグデータを活用した税務行政能力向上プロジェクト(技プロ)** 税務分野に於いて1998年より技プロ、開発調査、国別研修等の形で継続的に協力しており、2023年からはビッグデータ活用の能力向上及び事務プロセスの改善を通じ、モンゴル税務行政の効率性及び有効性の向上に寄与しています。

**事例:健全な財政運営に資する官民連携運営能力強化プロジェクト(技プロ)** 公共投資管理を通じてPPP事業から生じる官民双方のリスクが特定・評価され、偶発債務リスクの財政戦略への反映及び民間事業者の参加促進に向けた環境が整備されることを目的としています。

### ガバナンス強化

公共事業を適切かつ効率的に施行する行政官の人材育成、デジタル化促進を含む行政組織としての機能改善を目指しています。

**事例:サイバーセキュリティ人材育成プロジェクト(技プロ)** モンゴル国の安全なデジタル社会を推進するためにサイバーセキュリティ教育を向上することを目的で産学官連携ネットワークが構築支援、大学、公務員向けのサイバーセキュリティ教育プログラムの開発、教員育成を行っています。

**事例:JDS人材育成奨学計画(無償)** 2001年度から現在までモンゴルから日本の大学の修士、博士課程に約435名を送っています。卒業生はモンゴルの現役国会議員をはじめ、政府機関や中央銀行、金融監督委員会など、様々な分野で活躍中です。



## 2 環境と調和した均衡ある経済成長の実現

### 産業多角化・地域発展のための産業育成



国際資源価格に左右されやすい鉱物資源への過度な依存からの脱却のため、鉱業に次ぐ成長ポテンシャルを有する産業の振興(農業、ICT、観光等)、投資の促進を目指しています。

#### 事例:中小企業育成・境保全 ツーステップローン事業(有償資金協力)

産業の多角化や雇用創出、環境保全に資するため、中小企業に対して長期的な資金援助を供給すると共に、能力向上支援を行っています。これまで、フェーズ1・2合わせ、1,026社が3,820億MNT(約15,367百万円)の支援を受け、27,466人の雇用が創出されました。

#### 事例:市場志向型農業振興プロジェクト(技プロ)

対象地域の特性に応じた市場志向型農業振興アプローチに基づく一連の活動を通じて、家族農業を営む中小園芸農家と農業普及担当行政官の能力強化、及び野菜生産拡大に資する市場志向型農業推進の効果的な仕組みの確立を図り、もって野菜の食料供給・安全保障強化に寄与します。



### 環境と防災に配慮した都市インフラ整備



大気汚染など都市環境問題への継続した支援や、これまで支援してきた都市計画分野の法的・制度的枠組みに基づくゲル地区再開発事業実施支援、防災主流化への取り組み支援などを通して、環境に優しい安全な都市の実現に貢献することを目指します。また、「質の高いインフラ」の視点から、運輸交通・エネルギーインフラの整備及びその適切な運営・維持管理の実現に向けた支援を通して、モンゴルの更なる経済成長に貢献することを目指します。

#### 事例:新ウランバートル国際空港への協力 (有償資金協力・技プロ)

航空需要が増加する中、首都空港の安全性・信頼性を向上するため、新空港の建設を円借款で支援しています。また、新空港の円滑な供用開始、適切な運営・維持管理のための技術協力も行いました。また、増加する需要拡大に対応するため、協力準備調査を通して空港拡張に係る検討を行っています。



## 3 誰一人取り残さない社会の実現

### 保健医療の質とアクセスの向上



保健医療サービスへのアクセスの地域間格差の是正を目指すとともに、中間層の増加に伴う疾病構造の変化を踏まえた保健システムの構築を図ることで、モンゴルの保健医療水準の向上に貢献の育成強化により、経済成長に見合う質の高い医療医療サービスを提供します。

**事例:教育病院建設と医療従事者の能力強化への協力(無償・技プロ・JICAボランティア)** 経験が少ないまま現場に派遣される医師が多く、医療人材の質の向上が叫ばれる中、臨床実習を実施できる医科大学付属の大学病院の建設を行う無償資金協力や、医師になった後の卒後研修の改善を行う技術協力を実施しています。また、首都及び地方中核都市の医療機関に対してJICAボランティアを派遣しています。

#### 事例:モンゴル国学校給食導入支援プロジェクト(技プロ・JICAボランティア)

モンゴルの初中等学校で安全で栄養バランスの取れた給食を提供するための支援を行うと共に、栄養士を養成する大学やモンゴル日本病院などに栄養士のボランティアを派遣し、生涯に通じる栄養改善の基礎作りと疾病予防に取り組んでいます。



### 基礎的社会サービスの強化



障害者、生活困窮者等を対象に「福祉から就労への」転換を目指します。

#### 事例:生活困窮者のための就労を中心とした自立支援システム強化プロジェクト(技プロ)

生活困窮者の就労を支援する就労支援員の育成や企業への理解を促進し、生活困窮者が生活面で自立し、就労するためのシームレスな支援体制を構築しています。

# ウランバートルの 主な協力事例





## JICAのミッション

JICAは、開発協力大綱の下、  
人間の安全保障と質の高い成長を実現します。

## JICAのビジョン

信頼で世界をつなぐ

JICAは、人びとが明るい未来を信じ多様な  
可能性を追求できる、  
自由で平和かつ豊かな世界を追求し、  
パートナーと手を携えて、  
信頼で世界をつなぎます。

## アクション

### 使命感

誇りと情熱をもって、使命を達成します。

### 現場

現場に飛び込み、人びとと共に働きます。

### 大局観

幅広い長期的な視野から戦略的に構想し行動します。

### 共創

様々な知と資源を結集します。

### 革新

革新的に考え、前例のないインパクトをもたらします。

### JICA MONGOLIA OFFICE

Shangri-la Centre, 19th and 21st Floor, 19A Olympic  
Street, Sukhbaatar District-1, Ulaanbaatar 14241 Mongolia

Tel: +976 7505-8778

Mail: [mg\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:mg_oso_rep@jica.go.jp)

Web: [www.jica.go.jp/mongolia/index.html](http://www.jica.go.jp/mongolia/index.html)

FB: JICA Mongolia

